

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム コケモモの家	評価実施年月日	平成20年10月28日
評価実施構成員氏名	小笠原真理 菅野綾衣 相川耕平 川内郷子 富永深雪 中村ひとみ 稲山美子 長浜じゅん		
記録者氏名	長浜 じゅん	記録年月日	平成20年10月29日

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	町内会の行事などに参加させていただいたり、近隣の方との交流や挨拶が出来る環境を作る事でホームの理念実現への取り組みを行っています。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常的に行っている朝礼やカンファレンスの他に、全体ミーティングなどを行う事で職員間の共通の認識を高めたり、理念に向けた支援が出来るよう内部研修開催や外部研修へ参加するなど支援の向上に努めています。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホームでの取り組み内容を、広報や運営推進会議を通して家族や地域関係者へ報告する機会を作っています。また、外でホーム行事を行う時は事前に近隣の方にお知らせし、理解していただけるよう努めています。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	職員から積極的に挨拶する事で、地域の方から声をかけていただきやすい雰囲気作りが出来ています。入居者の方と一緒に近所へ散歩に出かけたり、回覧板をお届けしたりする事で近隣の方から声をかけていただけ、時には玄関先で立ち話ができたりしています。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	盆踊りや資源物回収への参加の他、町内会館で行った西岡音頭練習会への参加など入居者の方それぞれの興味や馴染みに合わせて参加させていただいています。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣に住んでいる方と一緒にホームの畑作りを行い、野菜作りのアドバイスをいただいたり、育った花の交換などの交流ができました。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で自己評価を行い、日々の支援の振り返りと今後の課題について考える事ができました。地域交流の機会を増やすよう努めた事で、ホームに対しての理解も深まっています。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	多くの方に取り組み内容を知っていただき、意見を伺えるように入居者と町内会役員の方と一緒に出前講座を受ける機会を作りました。ホーム側から報告内容を決めるのではなく家族や地域の方が聞いてみたい内容を事前に伺うなどしています。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者連絡会や地区会議などへ参加し、アドバイスをいただいています。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域で行った研修会への参加や、ホーム内研修に取り入れる事で学ぶ機会を作っています。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	入社時には虐待についての研修を行っています。職員都合の支援にならないよう努め、入居者の気持ちを考えながら支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には文章と口頭にて説明を行っています。ご家族やご本人の不安や疑問については契約時のみならず、都度対応させていただいています。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	いつもと様子が違う時や不安そうな時は、ゆっくりとお話ができる雰囲気作りをしご本人の思いを聴けるよう努めています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月写真付きの手紙に日常生活の様子や体調について報告させていただいています。預かり金については、管理者・計画作成者として入出金と残高を確認した後に管理表を送付しています。体調の変化などは都度ご連絡をしています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情処理を行うための処理体制と手順が取り決められている事を入居時に説明させていただいています。また、行事への家族参加の機会を作る事で職員と気軽に話ができるような雰囲気作りや、運営推進会議の中で意見を伺えるよう配慮しています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼時やミーティングの他、日常的に疑問点や意見を聞けるようコミュニケーションを図っています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	医療機関への受診や行事などがあった時は、職員数の確保と勤務時間調整を行い対応できるよう努めています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職があった場合は、入居者の気持ちを最優先し落ち込みなど無いように配慮し、新しく入社した職員と関係が築けるよう配慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ホーム内では入社時研修・学習会を行っています。外部研修にも積極的に参加し、研修終了後は報告書やミーティングで研修内容を他職員へ伝えています。また、他ホームへの現場研修も行っています。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	関連グループホームとの現場研修会を開催し、他ホームの支援を知る機会を設けています。豊平区地区会議へ参加し、サービス向上のための意見交換などを行っています。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	親睦会開催や、ミーティングを行い意見交換できる場を作っています。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個人目標を作り、支援の向上に努めています。勤務状況に応じて契約社員から正社員への登用を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人のお話を傾聴し、言葉だけではなく表情やしぐさからも言葉に出来ない不安や求めている事などを知るよう心がけています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>不安や心配事など気軽に話していただけるように努め、相談があった時はその都度対応をし信頼関係を築いています。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご家族・ご本人の意向を踏まえたうえでホームの支援内容説明の他、他サービスの情報提供なども行っています。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前にご本人・ご家族と面談を行い、馴染みの生活習慣や日課を伺い入居後に生活のペースが混乱しないよう配慮しています。誤解や混乱を招かないよう、他の入居者の方との会話に職員が入り顔馴染みになれるよう支援しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p> <p>出来る事、出来ない事の見極めの他、支援によっては出来る可能性がないか話し合いながら支援しています。</p>		
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p> <p>行事に参加していただき一緒に楽しんだり、カンファレンスに参加していただき情報をいただく事で支援内容の相談や確認が出来る関係作りに努めています。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p> <p>ご家族が来訪された時に、入居者の方が笑顔で出迎えられたり見送りが出来る事を心がけています。居室で過ごす他、共用スペースも利用していただく事でゆったりと会話出来るように配慮しています。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p> <p>家族や知人などの来訪があり、遠方の家族には手紙や電話で話せるように支援しています。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p> <p>得意な事や出来る事を生かし、入居者同士で協力したり助け合えるような場面作りを行っています。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p> <p>相談があった時には都度対応を行います。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や表情から嬉しい事・嫌な事などを感じ取れるように言葉の引き出しを行い、次の支援に繋がられるようケース記録への記入をしています。センター方式を利用し、職員都合の支援にならないよう気を付けています。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報を基に、ご本人の言葉・動作から馴染みの言葉・環境を知り、今どのような生活を望んでいるか把握するように努めています。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録に体調や表情などを記録し、どんな時に安心できるか・不安そうか等検討しケアプランに反映する事で統一した支援が行え、ご本人が混乱しないよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	過去の生活歴と現在の生活の様子を知り、入居者が望む生活の実現のための支援が出来るよう、センター方式を利用したアセスメント・ご家族からの意見を伺いカンファレンスで話し合いプランの作成を行っています。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ニーズの変化を把握できるように、ご本人の言葉や様子をケース記録へ記入してご家族や職員間での情報共有をし介護計画書の見直しを行っています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	目標設定を達成可能な身近な目標にする事で支援の統一を図っています。どのような声掛けを行ったか(職員が)どのような状況(周りの様子)だったか等も記入し、モニタリングに反映させています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	ご本人が希望される外出や緊急時の対応など、ご家族と相談しながら都度対応しています。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	地域のボランティアの方が来訪されたり、小中学校のボランティア受け入れ協力をすることで入居者が地域や子供と交流できるよう支援しています。	
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	必要に応じて各サービス事業所の専門職の方からアドバイスをいただき支援を行っています。	
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	運営推進会議を通じて地域の情報提供などをしていただいています。	
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	協力機関や主治医へ連絡・相談をしながら、日常的な健康管理・診察を受け医療連権に努めています。	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	日常生活の様子や変化を受診時の他、電話などで相談し助言や指示を受け支援しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置し、介護職員と連携しながら健康管理を行っています。体調の変動があった場合は、協力病院や主治医へ連絡調整をしております。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご家族と相談しながらご本人にとって最善と思われる状況を見極めながら主治医、病院関係者と共に退院に向けての話し合いを行っています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期の対応が必要な場合は、ご本人・ご家族の意向を伺い関係医療機関と連携を取り方針の共有を行います。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人・ご家族の要望や考えを伺い、ご家族・職員・主治医と情報を共有しながらご本人が不安なく生活出来るよう支援します。		
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境の変化による不安感を軽減するために、職員・他入居者とスムーズにコミュニケーションが取れるようご家族・ご本人と面談等を行い事前の情報交換を行い対応しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	周りにいる他入居者の方達から誤解されないような声掛け、誘導の配慮を行っています。事務所内の個人記録等については、出しっぱなしにしたりしないよう気をつけています。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	2～3の選択肢の中からご本人に選んでもらえるような声掛けやセッティングを行っています。言葉をうまく伝える事が難しい時は、写真や絵などを利用して自己決定ができるよう支援しています。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員だけの行動をする事で入居者のペースを混乱させないよう配慮しています。コミュニケーションを取りながら共に行動する事で、表情・言葉からご本人の希望を把握するよう努めています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	近所のお店で一緒に化粧品を選び、おしゃれを楽しめるよう支援しています。訪問理美容の利用の他、希望に応じて近隣の美容室へ出かけられる支援も行っています。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューにこだわらず、冷蔵庫にある食材で何を作るか相談しています。畑の野菜を収穫して、新鮮で旬の物を食べられる事で話題が広がり、楽しみにも繋がっています。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒やタバコを日常的に楽しんでいる方はいませんが、おやつや飲み物は、好きな物を選ぶようにいくつかの種類から選んでいただくよう支援しています。チラシを見て季節を感じられるようなおやつ(桜餅や柏餅など)と一緒に買いに出かけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレがわかるように表示したり、排泄パターンを把握し時間誘導を行う事でトイレで排泄できるよう支援しています。やむを得なくおむつを使用する場合、失禁した時の皮膚へのダメージを全職員が把握し、清潔保持に心がけています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	清潔保持のためだけの入浴にならないよう、気の合う入居者同士と一緒に入りたい時やこの時間に入りたいと要望があった時には臨機応変に対応しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間は作らず、見たいテレビがあったりおしゃべりしたい時は楽しんでから眠れるように支援しています。眠れない時は何故眠れないのかを考え、安易な眠剤の使用をせずにゆっくりご本人のお話を伺い、不安や心配事があれば都度対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	センター方式を使用して、個々の楽しみや役割を感じていただけるように介護計画書に取り入れています。行事では行きたい場所や馴染みの季節行事を取り入れています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談して、ご本人の管理できる金額を所持していただいています。食材の買い物へ言った時は、入居者の方にレジでの支払い・お釣りの受け取りが出来るよう支援しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や近隣への散歩の他、外出行事を取り入れています。個々の状況に合わせて外出時の付き添いや、お一人で外出出来る方は安全確認を行い外出していただいています。天気の良い日には、ホーム前駐車場でお昼ご飯を食べる時もあります。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行きたい場所を外出行事に取り入れて他入居者と一緒に出かけられたり、ご家族にも参加していただく事で出かけられる機会を増やせるよう工夫しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙が届いていた時はご本人にお伝えし、郵便受けまで取りに行き返事を出しに散歩がてらポストまで行ける支援を行っています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が気軽に来訪できる雰囲気を作るために、入居者の方が出迎えられるよう支援しています。居室だけではなく、リビングや食堂でも自由に過ごしていただけるよう配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム内研修時に具体的行為やリスクについて学び、拘束をされたらどのような気持ちになるかを考え話合いました。禁止対象の行為だけではなく、自分がされて嫌な支援ではないか職員同士で確認を行っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵をかけずに自由に出入りができます。		
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見張られてるような違和感を感じないように、職員が連携し誰が何処にいるか把握するよう努めています。夜間帯は状況に応じて30分に1度の巡回を行い、体調確認や転倒・転落がないか安全確認を行っています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な時間帯や場所・使い方などを話し合い、可能な限り使い慣れた物・馴染みの物が身近にある生活環境を心がけています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	外部で開催された事故リスクマネジメント研修に参加し、事故分析などを学びました。事故があった時は速やかに御家族へ連絡し、その後の経過や今後の対策について相談・報告しています。対策については1週間実施し、その結果はどうだったか・対策継続か・対策再検討か、同じ事故を繰り返さないよう話し合っています。		いつ飲む薬か・名前・数を服薬支援前に確認する事を徹底しています

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	地区センターで開催された救命救急講習に参加し、講習後もう1度ホーム内研修で救命救急対応練習を行いました。緊急マニュアルを作成し、急変時・事故などの連絡体制を整えています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回通報・初期消火・避難誘導の避難訓練を実施しています。いつでも確認できるように、見やすい場所に避難経路図を掲示しています。		
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご本人の生活の様子や言動を日頃からご家族にお伝えし、支援状況や今後の支援について来訪時・ケアプラン作成時などにご相談させていただいています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定その他食事量・表情などから体調の把握をし、変化があった場合はご家族へ連絡をし、早期対応を心がけています。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更があった時は、変更後の経過観察を行っています。薬の処方時には薬の説明書を読み、実際に受け取った薬と照らし合わせ確認をしています。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	ただ水分を勤めるのではなく、それぞれの入居者の飲みたい物や飲みたくなる雰囲気(おしゃべりを楽しみながら等)買い物へ行く事で自然と運動になる等入居者の方にとって負担と思えるような予防にならないよう配慮しながら便秘予防に努めています。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	定期的に口腔ケアが必要と思われる方については、ご家族と相談し歯科往診の利用をしています。その際、歯科医・歯科衛生士の方からアドバイスいただき口腔ケア支援に取り入れています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分・食事量がすぐわかるよう、個々のケース記録へ記入し把握しています。食事の様子や残した物などの記録も残す事で、固さや味付けの好みを把握しメニューや調理支援の中で取り入れ美味しく食べられるような支援を心がけています。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年入居者・職員はインフルエンザ予防接種を受けています。入居者・職員だけではなく、来訪者にもうがい・手洗いの声掛けを行い感染予防に努めています。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生マニュアルを作成しています。調理後の器具類消毒と布巾などの漂白を徹底しています。毎日の配達と近隣への買い物へ行くことで、食材を買い込まないようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>玄関横の花壇や建物横の畑を入居者の方と一緒に作り、明るい雰囲気作りに努めています。外出行事などでフロアーが不在になる時は、玄関インターフォンに張り紙をして来訪された方がどのインターフォンを押したらよいかわかるようにしています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>畑で花を摘んで飾ったり、趣味の作品を飾って明るい雰囲気作りを心がけています。照明やカーテンの開け閉めを自由に行っていただけるよう支援しています。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>リビングや食堂の他、廊下やホーム内を見渡せる場所にイスを置くなどして自由に過ごせる環境作りを行っています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>入居前にご家族にお話し、自宅で使っていた家具などを持ってきていただけます。入居後は、ホームで写した写真や手作りの作品・誕生日カードなどをご本人と一緒に飾って馴染みの部屋になるよう工夫しています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>室内換気の他、消臭・除菌に有効な加湿器を使用して嫌な臭いで不安や混乱しないように配慮しています。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・浴室など要所に手すりを設置しています。台所の食器や調理器具は入居者が使いやすい場所に収納し、使い勝手が良く行き来しやすいように工夫しています。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	目で見てわかりやすい環境を作る事で、出来る事が続けられ過剰な支援にならないよう心がけています。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダで洗濯物を干したり、畑で野菜の収穫をして食事に取り入れ季節感を味わいながら気軽に外へ出られるように工夫しています。		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの実績に関する項目		取り組みの成果
	項目	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
入居者一人ひとりの気持ちを考え支援しています。入居者・職員が共に笑い、共に助け合い、喜びや不安な気持ちを分かり合える関係が出来ているホームです！！